はじめに　前研究の成果と課題から

H30～R2

「『生きる力』から『みんなで生き抜く力』へ」

他者に助けを求める　　周囲と主体的にかかわる

本校職員の児童生徒へのねがい

一人一人の卒業後を見据えて

自分の強みを生かし、弱みを互いに補うこと

受け身だった生徒
⇩
主体的に強みを発揮

他者とのかかわりが少ない生徒
⇩
他者と協力しながら活動に取り組む

その一方で

すべての児童生徒に学びの保障を

- ○十分な実態把握
- ○教科ごとに育成を目指す資質能力の整理

} 教師間で共通理解を図りながら指導を行う必要性

課題

個々の児童生徒の実態をより細かく，分析的に捉え，将来の自立と社会参加に向けて必要となる資質・能力を計画的に育むこと。

「個別最適な学び」を実現するために

これまで

生活中心の教育課程

児童生徒の将来の自立と社会参加を目指す軸

＋「各教科の資質・能力の視点を加味」

- 児童生徒の学びに生じる変容
- 指導を行う教師の変容

を検討

「学習者自身による学びの調整」を意図して指導を行うことによる変化も検証していく．

答申では

個別最適な学び ― 協働的な学び

一体的な充実を図ることが重要

授業づくりの両輪として捉えることが大切であるとされている．

本研究では

「個別最適な学び」を実現するための一つの方法として「協働的な学び」を捉えている．（位置づけ）

活動の充実によって個の学びが必ずしも充実しているとは言い難い実践も。

活動ありきになっていないか

視点

個の学びが充実しているか

「協働的な学び」は〝個の学びの充実させるための方法〟

主題

「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり

設定

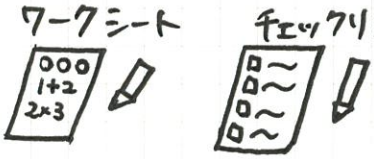
「教育的ニーズ」の把握について

「個別最適な学び」を実現するために

個々の児童生徒の実態を詳細に把握する必要性

教師間で指導の意図や手立ての有効性を同じ目線で検証，授業改善をすすめる ＋ 各教科の個々の実態を加味し授業づくりに生かす

いかに整理し、実践に生かすか ＋「実践の持続性」



目的に特化しているが
汎用性が低い
一過性のツールとして開発

その目的のためだけに
新たな記入・整理

業務上の負荷を
教師に課す

「児童生徒の実態の詳細な把握」と「実践の持続性」を
両立する仕組として独自のデータベースを作成

一体型のツール

- 授業づくり
- 学習評価
- カリキュラム・マネジメント

様々な場面で
効果的に活用できる

「M-FOCUS」

(Miyakyo-Futoku Organization Curriculum Upgrade System)

の構築を目指す．

1年次の取組の成果と課題から(1)

1年次の成果

M-FOCUSを活用しながら授業づくりを行う

→ 学習指導要領の教科の系統性に応じた目標設定が可能に。

これまでの本校の授業づくり

個々の教師の経験や指導観により、内容や学習段階が左右される

↳ 学習指導要領のような共通の指標に基づいて実態を把握するツールが存在しなかった。

↳ 本校独自で作成した「指導内容表」も活用の頻度減少。

児童生徒の学習到達度に関して教師間で共通理解を図る上で基準となる尺度自体が曖昧になっている.

↓

指導目標の設定が必然的に曖昧に。

「個別の学習履歴」の作成

共通理解に基づいた指導目標の設定プロセスの再構築

→ 指導目標を達成するための学習内容や手立てについて検討

↓

教師間の共通理解を基に検討可能

→ より個にせまる建設的な意見交換が可能になった。

教師間で共通理解に基づいた授業づくりへ

1年次の取組の成果と課題から（2）

課題

指導目標が決定

でも
- 授業を通してどのように指導する？
- どのように理解に結びつける？

手探り状態

興味や関心

障害特性

理解しやすい授業の形

各々異なる…

授業を考えるうえでも共通の尺度が必要

個に応じて多様な形を実現していく必要がある。

一人一人の児童生徒にとっての“学び方の特徴”について十分に把握し、授業づくりに生かしていく

“学び方の特徴”に関する共通の尺度を作成する。

「GKシート」

「学習の個性化シート」

◎その子が分かりやすかった学習環境や手立てを日々録のような形で記録。
＋簡易的なチェックリストの活用

→ 学び方の特徴を整理，分析的に作成する。

すべての学習の“学びをつなぐ”ツールへ発展

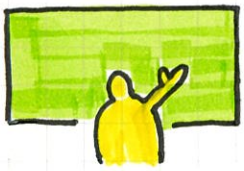
2年次の副題設定について

1年次

「個に応じた指導」の一層の充実
個々の「教育的ニーズ」を詳細に把握するためのツール（M-FOCUS）の構築を行う。

2年次

連動するデータベースの内容や機能も研究の進捗や校内のニーズに応じて変化している。



授業づくり

個別の指導計画
単元指導計画
各種点在してきた既存資料

→ **Google Workspace**

ドライブ上で一括管理

↓

必要な情報を，必要なときに閲覧しやすい形でアウトプット

↑ 最初の目標とした。

個別の学習履歴の作成

「指導の個別化」の観点から個々の児童生徒の学習進度や学習到達度を把握するための資料。

目的

個々の児童生徒の各教科の到達状況を三つの資質能力の観点で記録し、可視化する。

教科ごとの内容について担任間や学部間で理解状況を入力。

→ 個々の児童生徒の段階ごとの到達状況を把握が可能に。

各教科の見方・考え方、教科の段階性を意識した授業づくりへ

Ⅱ 研究の目的

「**個別最適な学び**」を実現するために必要となる授業づくりの視点、を明らかにするとともに、個々の児童生徒の「**教育的ニーズ**」に基づいた授業づくりのプロセスとその有効性の検証を行う。

1年次
ICTの活用による「個に応じた指導の一層の充実

⇩

適切な学習目標の設定
&
学習環境の整備

2年次
「学習の個性化」に向けた、児童生徒の"学び方の特徴"の把握

3年次
「学習者自身による学びの調整」を目指した授業実践

個別の指導計画
個別の教育支援計画
}に基づいた授業実践の形だけでは不十分である。

"連続性"と"継続性"の課題

指導目標や学習評価
目が粗い

ポートフォリオ評価
学びの蓄積のための手法

⇨ 記録や引き継ぎに費やす時間やエネルギー（増）

12年の指導の蓄積
「個人ファイル」

多岐に渡る内容

資料は膨大になっていく

- 精選
- 引き継ぎが容易
- スリム化

} **M-FOCUS**へ

（1年次）ICTの活用による「個に応じた指導の一層の充実

いつでも！

どこからでも

従来 — 個人情報保護

個人ファイル

鍵付きの書庫へ保管

→ Google Workspaceのアカウント認証によるセキュリティシステムへ移行

ネットワーク環境があれば〇K

M-FOCUS

膨大な資料をデータベース化

↳ 蓄積 可能

「個別の学習履歴」

「授業づくりシート」

アウトプットの形を工夫

↳ 個々の児童生徒の各教科の学習到達度を蓄積、一覧表示、

ICTの力を有効に活用

“連続性”と“継続性”の課題の解消

↓

“利便性”と“効率性”

業務改善へ

目指す!!!

ドライブの活用，スプレットシートの使い方などから

校内で部分的に活用していく段階からスタート。

（2年次）
「学習の個性化」に向けた児童生徒の"学び方の特徴"の把握

2年次

「学習の個性化」に重点を置いた授業づくり

「GKシート」の作成と活用

その子が"意欲的に学べる環境"と
"理解が深まる学習方法"の形を明らかにする

個々の児童生徒の
"学び方の特徴"に
関連する情報を集積する

⇒「指導の手立て」の設定へ

「個別の学習履歴」　「GKシート」

2つを活用して
授業づくりを行う

↓

学習目標 と 指導の手立て
詳細な実態把握に基づいて設定可能

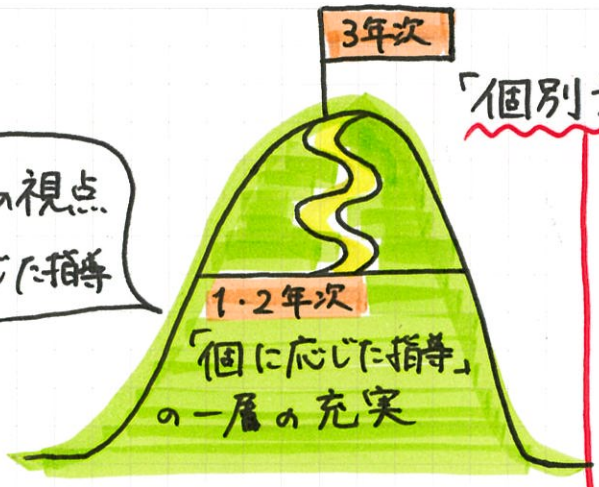
↓

「指導の個別化」と「学習の個性化」の観点を両立した
「個に応じた指導」の一層の充実にせまることが可能。

一層充実した
個に応じた指導

（3年次）

「学習者自身による学びの調整」を目指した授業実践



教師の視点
個に応じた指導

「個別最適な学び」へ

学習者視点から
「指導の個別化」と
「学習の個性化」の
観点を意識して取り組むことが
求められる

学習者自身が主体的に学びを調整する姿

- 学習に興味を示す姿
- 意欲的に学習に取り組む姿
- 自ら目標を設定する姿

「個に応じた指導」の一層の充実が
「主体的に学習を調整する」姿につながる要素の一端

「学習者自身による学びの調整」
どのように授業づくりを行うことで実現できるか
実践を行う

授業づくりの一つの視点

3年次

2年次の授業づくりの成果と課題を整理し、
「個別最適な学び」の実現に向けて一層授業づくりに力を入れる。